

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメールshiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

教育界の民主主義を守り抜くために

今私たちがしなければならぬことは

全滋賀教職員組合 澤 豊治

戦後71年目を迎えた。安部内閣は、次々と矢継ぎ早に「戦争のできる国日本」への道を突き進む政策を打ち出している。参議院選挙が終わった途端、案の定憲法改正問題を出してきた。教育の世界でも学テによる競争主義と学校の序列化、道徳教育の教科化と、戦後民主教育が大切に培ってきた「どの子もかしこい子に」を大本から覆すような教育施策が強制されてきている。戦後民主主義、民主教育にとって最悪の状態に近づいていると言っても過言ではないのではないだろうか。

しかし、私が今問題にしたいのは、このような策動についてではない。このようなマイナスの策動はいつの時代もあった。問題なのは、この策動はね返すような我々のエネルギーな運動である。今この力が、極端に萎えてきてはいないだろうか？労働者、教職員の極端な組合離れ、民間教育サークルの会員減少と研究の停滞、民主教育運動の元気のなさは、目に余るような気がする。この問題をもっと今真正面から取り上げ議論しないと、本当に

手遅れになるのではないだろうか？教師の多忙化を筆頭に原因分析を徹底してやらなければならぬだろう。そこから、方針を導き出すことも大事なことだ。

しかし、このことは現段階でも各々の組織では少なからずやっているのではないだろうか？私ここで声を大にして主張したいのは、この問題を各組織だけに引き取って考えているだけでは、だめだということだ。この課題や悩みを共有するものたちが、今こそ集まって、大きな流れを作り、その中でこの課題に立ち向かうことの重要性を声を大にして言いたい。多少の方針の違いや、運営の仕方の違いを取り立てて、互いを敬遠し合っているような悠長なときではない。反動的な波は、次から次へと押し寄せてきている。ここは今一度、民研や、サークル協、全滋賀教組が中心となって団結し、大きく力強い民主教育の流れを是非造ってもらいたい。若い教師は、間違いなく学びの場を欲している。ここに希望を持って、我々がもっと有機的に繋がり、

《 今月の紙面 》

- ・教育界の民主主義を守り抜くために今私たちがしなければならぬことは / 澤 豊治 …P1
- ・高校で特別支援に関わって / 井口 真紀 …P2, 3
- ・滋賀県内の戦争遺跡が語るもの1 / 水谷 孝信 …P4, 5
- ・子どもも保護者も楽しむ彦根の星の教室 / 丹部 孝 …P6
- ・18歳選挙権に生徒はどう臨んだか / 森田 和行 …P7
- ・サマーセミナー報告 / 桂田 良高 …P8



(さわとよはる)

効率よく彼らの要求に迫れるようなダイナミックで柔軟な取り組みをしていくべきである。60歳定年は、官制のもの。50、60での引退は、早すぎる。この年代の者は、滋賀の教育の歴史に私たちの足跡をしつかり残すため、もうひとがんばりしようではありませんか。何としても、青年、壮年世代に私たちの思いを届けるための努力をみんなが集まってしましょう。そのまま老いぼれていつてはだめです！ そのためにも民主教育に関わるすべての団体、個人の協力、共同を切に願います。